



# 漫画で 伝える

INFORMATION TECH  
MANGA

# 3つの漫画



HOMIDO PRIME



HOMIDO MINI



QooCAM EGO

# 著作権・著作権について

[佐藤秀峰先生の著作権放棄について](#)

作者で漫画家の佐藤秀峰先生は、2012年9月「ブラックジャックによろしく」は二次利用規約に従う限り、商用・非商用の区別なく、事前の承諾を得ることなく無償で複製し公衆送信し、また、どのような翻案や二次利用(外国語版、パロディ、アニメ化、音声化、小説化、映画化、商品化など)を行うことも可能としました。

## [「ブラックジャックによろしく」無料素材](#)

佐藤先生の作品には他にも特攻の島、海猿があります。

私は念のため佐藤秀峰事務所に連絡して使用許諾を得ています。許諾条件は、図版の何処かに「佐藤秀峰」と明記することです。

佐藤秀峰先生の著作権放棄に関連する内容は割愛しますが、興味のある方は佐藤秀峰 フジテレビ 海猿 事件で検索してください。



佐藤秀峰先生と作品



# コマ切り貼りで制作したのが発端

右のようなフリー素材化したブラックジャック  
によろしくのコマを切り貼りして制作したのが  
次のページの漫画です。

既存のコマに対して吹き出しをつけるのでは  
なく、自分のストーリー通りのコマを探す作  
業なので結構大変ですが、私や合志さんは  
もともと「ブラックジャックによろしく」の熱烈な  
愛読者だったので、どのコマがコミック第何  
巻に掲載されているかを予め熟知している  
ので二次制作は容易でした。

ちなみに「新・ブラックジャックによろしく」の  
著作権はフリーではありません。





—良いVRグラスは、  
必ずしも、店頭で買えるとは限りませんがね。



[全編はこちら](#)

# HOMIDO PRIMEの場合



## 伝えかったこと

- VRゴーグルは高額商品ばかりではない
- ディスプレイが綺麗じゃないと結局映像は綺麗じゃない
- ディスプレー一体型は4K時代に買い替えなければならない

VRという言葉が定着していなかった頃、VRを見るためには高価なゴーグルでなければ見られないという認識が一般的でした。まずそれを払拭するために、「YoutubeのVRなら無料で見られます」というメッセージを込めて一般へのVRゴーグルの普及を目指しました。

また、購入者のレビューに散見された「HOMIDOはスマホVRだからあんまり綺麗じゃない」も払拭するために、それはあなたのディスプレイが汚いからですよというメッセージを込めてiPhoneのなんとかディスプレイなら綺麗に見られますという切り返しを行いました。

いずれも漫画に練り込んであるので嫌味な感じには発信されていないと思います。

# HOMIDO MINIの場合



## 伝えたいこと

MINIは簡易VRグラスなので、光が入って没入感が少ないが、スマホごと手で覆うように使用すればヘッドマウントタイプと相違ない機能があること

これはHOMIDO MINIの細かくて伝えにくい特長の一つで、「スマホを手で覆う」という行為は、写真ではいまいち訴求力がなく、[動画も作ってはみたものの](#)、これもなかなか「行為は伝わる」が「感動」が伝わりにくく、これを伝えるべく漫画化しました。説明的でなく直感的に伝えることができ、漫画だからこそ手で覆うことで感動が得られるという部分まで描写できたと思います。

漫画を見る

# QooCAM EGOの場合



## 伝えたいこと

EGOはEGO同士のシェア機能があるが、EGOがなくてもスマホで見られる。スマホで見られるからHOMIDO MINIで見られる。

EGOを取り扱い始める際に、私が最も気にしたのがHOMIDOとの連携でした。二画面で撮れるのだからHOMIDO MINIと連携できるはずだと考えました。ただ、EGOのマニュアルにはそこまでの説明は当然記載がありませんので、誰かが発信しなければ誰も気づかないギミックでした。EGOはコンシューマ機ということもあり、これを漫画化するとスムーズに伝わるだろうと考えました。

漫画を見る



# 細かくて伝えにくいことを伝える

---

## サービスや商品の「実は●●」を漫画で表現する意義

サービスや商品には、開発者の意図やこだわりが込められている。

しかし、その「実は●●」部分は、言葉で伝えようとする、ユニークであるがゆえに自慢や嫌味にも受け取られかねない。そこで、漫画という手法を用いることで、ユーモアを交えながら、自然にその部分を伝えることができる。

それから漫画は、言葉だけでは伝わりにくいニュアンスや感情を、表情や動作、セリフなどで表現することができる。また、ストーリー性を持たせることで、読者の共感や興味を惹きつけることができる。

そのため、サービスや商品の「実は●●」部分を、より効果的に伝えることができる。

# 託された場合に使いやすい

---

## 販売代理店の理解と協力を得るための販促戦略

我々の商品は、購入者だけでなく、販売代理店にもその機能や特長を理解してもらうことが重要です。しかし、漫画を販促ツールとして直接販売代理店に配布することは、現実的ではありません。

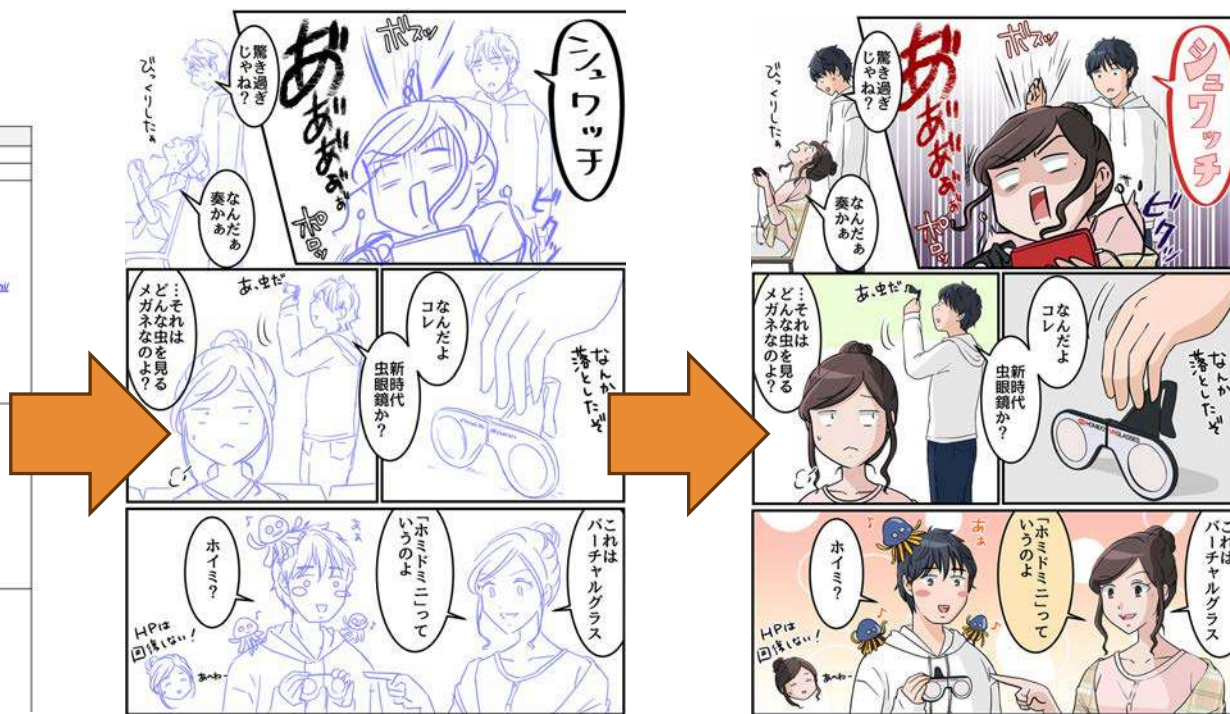
そこで、我々は、自社でこのような販促活動を行っていることを、販売代理店に伝えることで、代理店側の理解と協力を得ることができるかもしれません。漫画はさりげなく託された代理店が使いやすい販促ツールの一つかもしれません。

# 漫画制作の流れ

起  
承  
転  
結

<登場人物>		
キャラクター：A	女子大学生	近いキャラとしては涼宮ハルヒの憂鬱のハルヒ
キャラクター：B	Aと同じサークルの男（主人公）	近いキャラとしては涼宮ハルヒの憂鬱のきよん
補足：（ ）のセリフは心の声。		

映像&内容	状況説明	コメント	参考資料
朝日が登る大学にて	後半の伏線です		
キャンパスの教室でMINIで何かを見ているA			
最初後ろ姿のカットなので、Aが何をしているのかがはっきりわからない教室にはいって行くB			
Aがみているのはスマホに取り付けたHOMIDO MINI	右手片手で持っているでパソコン見も口ボシダンのようにも見える	B「お前はウルトラセブンか？」 A「……」 B「シュワッチ」 A「わあああああああ！！」	<a href="https://www.homido.jp/home-mini/">https://www.homido.jp/home-mini/</a>
イヤホンで集中してMINIを見ているのでBの声はAには聞こえていないBがAに軽く手ヨップするVRの中でチョップされたのと違いして、めっちゃめっちゃ驚くひっくり返るくらい驚いてもいい		B「なに見てんだよ」 A「なにすんのよ！バカー！！」 B「なんだこれ、新時代虫眼鏡か？」 A「それはどんな虫を見る眼鏡なのよ」 A「これはバーチャルグラス」 A「ホミド ミニっていうのよ」 B「龍野リリィ？」 A「誰よそれ」	
そんなに驚くか？という表情のB			
スマホから外れたMINIがコロコロと転がるそれにBが気づく			
Aが右手で二画面VRが表示されたスマホをBに見せる左手にはMINIを持っている	VRライブ映像のスマホアップ (official 龍野リリィ)	A「こういうVRをこれで見るとのよ」 B「ふーん」 (...ヒゲダン)	
いまいぢピンときていないB Bが驚いたことがすぐにわかるA		B「なあ VRってもっとこうなんじゃないか...」 A「ごっついゴーグル？」 B「ああ そうそう あれなら見たことあるけど」	



① 全体のストーリーを台詞も含めて考える

② コマ割りをしてもらって下絵ができる

③ 完成

※商用・営利目的の資料ではなく、社内発表用の資料です。

※個人的な見解や解釈を含んでいる場合もございますがご容赦ください。